



## 豪州非上場資源会社 Hancock Prospecting 社について

～ Part VII： おわりに ～

〈石炭開発部 井上晴夫〉

令和元年9月25日付本稿 Part VI (HPPLの石炭事業(その2) - 豪 Riversdale Resources 社買収) に続き、本稿最終回となる Part VII では、HPPL 及びオーナーに関して読者の参考になると思われる事項について記す。

### 5. おわりに

HPPL 及び同社の事業について、Web 上で検索しても同社 HP に記載されている内容以上の情報はほとんど得られないし、また同社の全体像を把握できるような資料が表示されることもない。非上場である HPPL は、豪会社法等で義務付けられている必要最小限の情報のみ開示しているものと見られる。従って、HPPL 及び同社事業に関して得られる情報は、主として HPPL プレスリリースによるもので、その他 HPPL が JV を組んでいる相手企業或いは HPPL 社が有力株主となっている企業のプレスリリースやプレゼン資料、HPPL が関係するリセプション等での同社幹部によるスピーチ及びメディアに掲載される HPPL 及びオーナー Gina Rinehart に係る記事等で、通常、特定の個別案件に関する断片的なものである。

非上場会社 HPPL 事業全体の概要を纏めたレポートは、豪コンサルタント会社があるようだが、筆者が有償レポートを見る機会もないため、その内容や充実度については不明である。このような状況下、本稿では、公表されている文献・資料及び Web 上で入手可能な情報に基づき、“ベール”に包まれている HPPL についてその事業を含めた全体像を把握することを目指した。

なお、HPPL が雇用する人材との間で締結する雇用契約には、HPPL やオーナーに関して社内で見聞きしたことを外部に漏らさない旨を定めた非開示条項が含まれていると言われており、HPPL 社員は同社を離れてもメディア等に話をすることはないと見られる。

HPPL 事業の全体を纏めてみようと思った動機は、筆者が JOGMEC に再就職する前、民間企業の駐在員として豪州に在住していた1980年代半ば及び1990年代前半、鉄鉱王 Lang Hancock や Lang の一人娘 Gina Rinehart 及び HPPL に関する新聞記事を時々目にしたことで Hancock 家/HPPL に関心を持っていたことに加え、近年、HPPL が owner-operator として Roy Hill 鉄鉱山の開発・操業を実現し、鉄鉱石事業が軌道に乗ったことから、現オーナー Gina が以前から望んでいたとする牧畜事業を新たに展開し、直近ではカナダの原料炭開発プロジェクトの確保に動いた HPPL の存在感が増している割には、日本では知名度が低いためか、HPPL について報道さ

れることはほとんどなく、また同社事業を取り纏めたレポート類も見当たらないという事情もあり、筆者として HPPL 事業の全貌を知りたいが、そのためには自身で同社事業の全体を纏める他に方法はないと認識したためである。

当初は、HPPL についてどのような情報を入手できるのか見通しは全く立っておらず、最終的に、本「カレント・トピックス」として纏められるのかどうかさえ定かではなかったが、取りあえず一步前に進むこととして、情報収集作業に着手した。時間のかかる検索作業を続けながら、個々の案件について情報収集を継続し、出来事を時系列で追いかけてながら分析・検討を行うことで、HPPL が取った行動の背景や理由が浮かび上がることもあった。このような作業を続けた結果、完全とは言えないまでも、何とか現在の HPPL 事業の全体像を把握できたと思えるところまでに至った。本稿では、現在の HPPL 事業活動のほとんどを取り上げることができたと考えてはいるが、一方で、鉄鉱石、鉱物資源及び石油・ガス開発に関しては専門外、ましてや牧畜・酪農事業は全くの門外漢なので、分野によっては記述した事業内容に濃淡があること、また専門用語が正確ではないとのご指摘もあろうかと思われるが、ご容赦頂きたい。

家族経営会社 HPPL とそのオーナー (Lang Hancock 及び後継者で現オーナー Gina Rinehart) とは表裏一体であり区別するのは難しく、また家族経営会社では起こり勝ちな家族内の争いも生じており、本 Part VII では、HPPL 及びオーナーの人物像を知る上で参考になると思われる事柄を取り上げる。

#### (1) Lang Hancock と Gina Rinehart

HPPL の礎は、Lang Hancock が 1952 年 11 月に Pilbara 鉄鉱床を発見、1959 年 6 月に Rio Tinto が royalty の支払いに合意 (1963 年 6 月、正式な Royalty Agreement 締結) したことで築かれた。Hamersley Iron 社 Mt. Tom Price 鉄鉱山が 1966 年に開発され日本向けに鉄鉱石輸出が開始されたことにより、HPPL は Rio Tinto (当時は CRA) から Royalty Agreement に基づく royalty を受領し始め、現在では、この royalty 収入は、少なくとも年間 3 億 A\$ を超えるものと推定される。Lang の目標は鉄鉱山の owner-operator になることであり、royalty 収入のみで満足することはなく、Lang は晩年になっても目標の実現に向け努力を続け、例えば、ルーマニアの独裁者チャウシェスク政権とパートナー取引<sup>1</sup>による鉄鉱山開発を目指したもののその実現には至らず、自社鉄鉱山の開発・操業の実現は一人娘の Gina Rinehart に託された。

なお、余談になるが、Lang Hancock に関する伝記によれば、Lang は極めて保守的な考えの持主で、時には物議を醸すようなことを述べたりした。今日では到底理解されないことではあるが、例えば、先住民には土地の権利は無いことを主張したり、地下で制御された小型核爆弾を使用した鉄鉱床の破碎や新規港湾作りを提唱したりした<sup>2</sup>。

<sup>1</sup> 1988 年 9 月、Lang はチャウシェスク政権との間で、15 年間で鉄鉱石 5,000 万トンとルーマニアに供給する 15 億 US\$ 相当の長期契約を締結、同年 12 月には、1,500 万トンの鉄鉱石を追加供給する 4 億 US\$ 相当の契約を締結したと報じられた。Lang はルーマニアから、鉄鉱石代金の代わりに鉄道貨車や採掘重機等の提供を受けることになっていたが、1989 年 12 月のルーマニア革命により本契約での合意事項の実行は中断された。

<sup>2</sup> Australian Dictionary of Biography “Hancock, Langley Frederick (Lang) (1909-1992) by Melville

Gina Rinehart の伝記等によれば、Gina は 4 才まで Pilbara の Hamersley Station を中心に両親と暮らした後、Perth の英国教会系女学校へ通い、Sydney 大学経済学部にて 1 年在籍して退学後、父親 Lang と一緒に働くことで Pilbara の鉄鉱石産業について知識と経験を積んだ。Lang と Gina は緊密な関係を築いていたが、Gina が 1983 年初めに米企業弁護士 Frank Rinehart (1926~1990) と再婚してから両者の関係が悪化、更に Lang が再婚して 35 年以上連れ添った Gina の母親 Hope Hancock が 1983 年 4 月に死去した後、Gina が Lang の身の回りを世話するメイドとして雇ったフィリピン人 Rose Lacson<sup>3</sup>(1948~) と Lang が 1985 年 7 月に再々婚したことで、Lang と Gina の関係は決定的に決裂した<sup>4</sup>が、Lang が Rose の浪費や身勝手な振る舞いに怒りを覚えるようになり、Lang が 1992 年 3 月に死去する少し前には父娘の関係は元のように回復したと言われている。

Gina が 1992 年 3 月に HPPL 会長を継いだ時の HPPL 純資産は 6,300 万 A\$、Rio Tinto からの年間約 1,200 万 A\$ の royalty 収入で何とか会社が回っている状態で、この当時、HPPL 資産の多くが抵当に入れられ、現金不足のため探査・開発作業もほとんど実施できなかつた<sup>5</sup>とのことである。このように資金に余裕のなかつた HPPL の財務状況は、中国の経済発展に伴って Pilbara region で生産された鉄鉱石輸出が増えていくことで大きく改善され、2005 年 7 月、HPPL は Rio Tinto と Hope Downs JV 結成を合意、Hope Downs 1 North Mine が開発移行し、2007 年 11 月以降同鉄鉱山で鉄鉱石の生産・輸出が開始されてから、HPPL の収益は増加し、Gina の所有財産も急増している。

Hope Downs 1 開発費 9 億 8,000 万 U\$ のうち、HPPL が負担する鉱山開発投資額 5 億 9,000 万 U\$ の 50% は、Hope Downs 権益 50% を Rio Tinto に売却することで得た推定額約 7 億 U\$ で十分賄うことができたと考えられる。2011 年 2 月から開始された Hope Downs 4 鉄鉱山開発に係る HPPL 負担額 6 億 U\$ は、2011 年 9 月に Kevin's Corner Coal Project 100% 権益及び Alpha 及び Alpha West Coal Projects 79% 権益を GVK グループに売却することで得た 7 億 U\$ で賄え、2012 年 6 月の Roy Hill 鉄鉱山会社 RHH の本部 ROC 建設着手を以て開始された Roy Hill 鉄鉱山開発投資額 100 億 U\$ の資金調達のため、RHH 株式 30% を 32 億 A\$ で売却、また総額 72 億 U\$ に上る大型プロファイを組立てており、Gina は必要となる鉄鉱山開発投資の資金調達のため HPPL が保有する資産を上手く活用していることが分かる。

## (2) メディア事業への参入

Lang Hancock は一時期、新聞を発行するメディア事業<sup>6</sup>に従事したことがある

---

J. Davies” 及び “Wake Up Australia, by Lang Hancock, 1979” に基づく。

<sup>3</sup> Rose にとっても Lang との結婚は再々婚であった。なお、Rose は Lang が死去して 3 ヶ月経たずして、Lang の長年の友人で不動産事業を営む富豪 William Porteous (1945~) と 4 度目の結婚をしたが、2012 年に離婚した。

<sup>4</sup> Gina は父親 Lang と Rose の結婚に終始反対していた。Lang の死去後、Gina と義母 Rose の間で遺産相続争いが 11 年間続いたが、2003 年 9 月に示談が成立、Gina による HPPL 相続と Rio Tinto royalty 受取りが確定した。

<sup>5</sup> 2012 年 2 月 4 日付 Australian Financial Review 記事 “Gina's steady on her own course, by John Stensholt and Jamie Freed” に基づく。

<sup>6</sup> 1969 年 4 月、Lang Hancock と Peter Wright は、Perth にて週刊新聞紙 “The Independent (1971

が、Lang 同様に保守的な考えの持主である Gina も一時期、豪メディアへの参入を試みている。2010年11月、HPPLは豪TV会社 Ten Network Holdings Ltd (TNH 社<sup>7</sup>) 株式10%を約1億6,000万A\$で取得、Ginaは同年12月にTNH社役員<sup>8</sup>に就任した。HPPLはTNH社株を保有し続けたが、TNH社業績は低迷し株価は下落を続け、経営陣の刷新が度々行われものの業績は回復せず、2017年6月、管財人が指名された。同年8月、米国最大のテレビ・ラジオ・ネットワークを有する CBS Broadcasting, Inc. (CBS 社<sup>9</sup>) の豪現地法人が約1億2,300万A\$でTNH社を買収することが発表された。HPPLがこの時点で保有していたTNH社株8.52%は無価値と評価され、同年11月、CBS社がTNH社の買収を完了した時点で、HPPLは投資した約1億6,000万A\$の損失が確定した。

また、2010年12月、HPPLはFairfax Media Ltd (Fairfax 社<sup>10</sup>) 株式1.5%を約5,000万A\$で取得したのを皮切りに、2012年2月に保有比率を14%に上げ同社最大株主となり、同年6月には18.67%とした。2012年3月、Ginaは自身を含む3名をFairfax社役員とすること、また役員が編集方針に関与できるよう要求したと報じられたが、同社の保険契約では、同社株式15%以上を保有する役員は同社が提訴された場合は保険対象から外れることになっていたため、HPPLは同年7月、株式保有比率を14.99%に下げた。Fairfax社役員会は、GinaがFairfax社の編集独立性を謳った定款に同意しなかったため、Ginaを役員として受入れることを拒否した。同年8月、GinaはFairfax社株主に自身の役員就任への支援を求める文書を送付する等試みたが、結局、Ginaの役員就任は実現せず、HPPLは2015年2月、保有するFairfax社14.99%分の株式を全て売却した。HPPLはFairfax社株式売却にあたり、経営陣は同社の活力を取り戻すことや衰退する事業や発行部数の減少に対処するための具体策を持っていないと言及した。参考までに、HPPLは、Fairfax社株式取得に総額2億8,000万A\$を投資、収入総額は3億4,340万A\$ (株式売却収入3億580万A\$+配当収入3,760万A\$) となり、差引6,340万A\$の利益を得たと報じられている<sup>11</sup>。

GinaがHPPLを通して豪メディアへ参入しようとした目的は、メディア事業で収益を図ろうとしたものでなく、新聞やTV等の媒体を通して、下記するように、Gina自身や保守派の意見を豪州国内へ浸透させようとしたものであろう。GinaがFairfax社において編集方針への関与を要求したとされていることから、この見方は

---

年1月、“The Sunday Independent”に名称変更) ”を発行したが、Langは1970年初めに同新聞紙権益を手放し、Peterも1984年に同紙権益を売却した。Langは、1973年、新たな新聞紙“The National Miner”の発行を開始したが、1978年に同紙の発行を止めた。

<sup>7</sup> TNH社は1998年3月、NSW州Sydneyで設立された。同社の主要ビジネスは、テレビ放送ネットワークのTen Network。

<sup>8</sup> GinaはTNH社役員を2014年11月まで務め、その後、HPPL幹部が同役員を引き継いだ。

<sup>9</sup> CBS社は1927年にNew Yorkで設立された。現在のCBS社持株会社はCBS CorporationでNYSEに上場している。

<sup>10</sup> Fairfax社は1990年、NSW州Sydneyで設立された。2010年当時、Fairfax社は、豪州でメディア王と呼ばれるRupert Murdoch (1931~) が率いるNews Corporation (The AustralianやThe Courier-Mail等の新聞、出版事業) に次ぐ第2位の出版メディア企業であった。Fairfax社が発行する主要新聞には、The Sydney Morning Herald、The Age、The Australian Financial Review、The Canberra Times等がある。なお、2018年7月、Fairfax社はNine Entertainment Co. Holding Ltd (Nine社) との合併 (Nine社51.1%、Fairfax社48.9%) を発表、同年12月、豪州最大メディア企業Nine社が誕生した。

<sup>11</sup> 2015年2月9日付Crikey記事“[How much did Gina Rinehart make out of Fairfax ?](#)”に基づく。

間違っていないと思われる。

### (3) 政治に係る言動

Gina は政治に係る発言や活動を行っている。Gina は 2010 年 4 月、豊富な天然資源に恵まれ、経済的ポテンシャルの大きい豪州北部地域<sup>12</sup>の開発を目指すロビー団体 **Australians for Northern Development and Economic Visions (ANDEV)** を設立、その共同議長に就任している。ANDEV は、連邦・州政府及び関係者に対するロビー活動を通して、できる限り税率の低い北部経済特区 (**Northern Special Economic Zone**) を作り、投資及び有能な人々を十分に誘致するための様々な実践的奨励策を作成することを目的としている<sup>13</sup>。

2010 年 8 月、豪州の保守的シンクタンク **Institute of Public Affairs (IPA)**<sup>14</sup> が、ANDEV と同様、豪州北部地域の自由貿易区の設置を提唱<sup>15</sup>しており、Gina はこの頃から IPA との連携を深めたものと推測される。IPA は ANDEV メンバーになっており、ANDEV と IPA は北部地域の競争力を高める開発政策の作成に協力している。

なお、2013 年 4 月、IPA の設立 70 周年を記念して、Gina は IPA から **Free Enterprise Leadership Award** を授与され、2016 年 11 月には、Gina はこれまでの IPA に対する貢献を称えられ IPA 名誉終身会員になった。2018 年 7 月、HPPL が IPA に、2015/16 年度に 230 万 A\$、2016/17 年度に 220 万 A\$、計 450 万 A\$ を寄付していることが明らかにされた。IPA の 2015/16 年度収入 496 万 A\$、2016/17 年度収入 610 万 A\$<sup>16</sup> に占める HPPL 寄付金の割合は、それぞれ 47% 及び 36% と相当に高く、HPPL の寄付が無ければ IPA の当該年度収支はそれぞれ赤字になるところであった。Gina が IPA 名誉終身会員を授けられたのは、Gina の資金面を含む貢献を多としてのものと思われる。

Gina Rinehart 及び IPA は、豪州政府が企業活動に制約を設けることや豪州経済発展に悪影響を与える各種政策、例えば、炭素税<sup>17</sup>や鉱物資源利用税 (**Mineral Resources Rent Tax : MRRT**<sup>18</sup>) の導入に強い反対を表明してきた。

炭素税の導入に強く反対してきた Gina は人為起源による地球温暖化の否定論者でもあり、例えば、2011 年 5 月、「皆さんは“地球温暖化”という言葉をあまり耳にしなくなったことにお気づきですか？このテーマは、CO<sub>2</sub> が引き起こす“気候変動”に変わってきているが、気候変動ということであれば、世界の気候は常時変動しており、今後も変動し続ける。人間が文明化する前でさえ、世界は氷河時代や地球温暖化の時期を経ており、石炭火力発電所、製鉄所、その他製造所を全て閉鎖したとしても、

---

<sup>12</sup> 豪州北部地域とは、西オーストラリア州北部、北部準州及びクィーンズランド州北部を指す。

<sup>13</sup> “ANDEV Strategy & Approach, May 2010” に基づく。

<sup>14</sup> IPA は 1943 年、ビクトリア州 Melbourne で設立された非営利の独立系シンクタンクで、経済的政治的自由の維持・強化に貢献することを目的としている。IPA は豪自由党との関係が深いとされる。2017 年末時点の会員数は 4,559 人。

<sup>15</sup> IPA Review (2010 年 8 月号) に掲載された “Unleash the North”。

<sup>16</sup> IPA 2017 Annual Report より。

<sup>17</sup> 2007 年 11 月の総選挙で勝利した労働党政権が炭素税を導入しようとした。

<sup>18</sup> MRRT は労働党政権下の 2012 年 7 月 1 日に導入されたが、2013 年 9 月の総選挙で MRRT 撤廃を約束して勝利した自由党/国民党の保守連合政権の主導により、2014 年 9 月 30 日で MRRT は無効となった。

気候に影響を与える変化は常に起きるものである。」と主張したことが報じられている<sup>19</sup>。また、前述したように、HPPLが有力株主となった企業の多くで、HPPL指名により役員に就任してきたIan Plimer名誉教授も、人為起源による気候変動の否定論者として豪州では有名である。IPAも人為起源による気候変動について否定してきており、2017年6月にIPAが出版した気候変動に関する報告書<sup>20</sup>では、地球温暖化の原因のほとんどは自然によるものと結論付けている。

#### (4) 牧畜事業

HPPLオーナーとしてGinaが力を入れているのが、2014年から参入した牧畜・牛肉ビジネスである。幼少の時期をPilbara regionのHamersley Stationで暮らしていたことで培われたものと思われるが、Ginaは豪州への愛国心、特に西オーストラリア州に対して強い郷土愛を持っている。Ginaは2016年10月、牧場生活が大好きであったこと、ここに至るまで数10年かかったが、鉄鉱石と石炭事業に加え、牧畜事業へ参入することが長年の希望であったと述べている<sup>21</sup>。

特に、大きな話題となった豪州で最大の土地を所有する牛肉生産会社最大手の一社であったS. Kidman社の買収に関しては、中国系企業が同社を買収する契約を2回に亘り締結したものの、連邦財務大臣に国益を理由に2回とも契約の承認を拒否されており、S. Kidman社が売りに出されて1年半近くなるのにもかかわらず買手が決まらず、また同社の買収には多額の資金が必要になることから、一体どの豪州企業が名乗りを上げるのか、連邦及び州政府関係者をはじめ多くの豪州人が固唾を呑んで見ていたところ、GinaがオーナーのHPPLが買い手として現われたことで、連邦国会議員や州議員等からはGinaに対して、ほとんど“救世主”であるような賛辞と感謝が表明された<sup>22</sup>。HPPLの牧畜業への参入は、中国を主とするアジア向けの豪州産牛肉ビジネスの拡大を期待したもので、HPPLは既に、豪州における牛肉生産会社の2番手になっており、豪州で牛肉生産最大手になるのも時間の問題かもしれない。

#### (5) 慈善活動

Ginaは慈善活動に熱心であるが、メディアの前に出ることはほとんどなく、Ginaが設立した基金或いはHPPL等を通して行っている慈善活動について公表することもないため、その全体像を把握するのは難しい。HPPL HPに記載されている慈善活動及びその他メディア情報等に基づき、慈善活動について分かる範囲内で簡潔に列記する。

##### 1) スポーツ関連

- 1992年以降、後援者として毎年A\$125,000をSwimming WAへ寄付(Hancock Family Medical Foundation & HPPL)。
- 2000年半ばから10年以上、後援者としてSwimming Queenslandへ寄付

<sup>19</sup> 2011年5月5日付 Australian Mining 記事 “Gina Rinehart urges Australians to fight against carbon and mining taxes, by Jessica Burke” に基づく。

<sup>20</sup> “Climate Change - The Facts 2017, Institute of Public Affairs” (June 2017)。

<sup>21</sup> 2016年10月8日付 The Australian 記事 “‘Passionate’ Gina Rinehart beefs up her Wagyu herd” より。

<sup>22</sup> 2016年10月10日付 The Australian 記事 “Gina Rinehart swoops on Kidman cattle empire” に基づく。

(Hancock Family Medical Foundation & HPPL)

- 2012 年から Swimming Australia の後援者として、4 年間で総額 1,000 万 A\$を寄付 (HPPL & Georgina Hope Foundation)。なお、後援期間は 2020 年東京オリンピックまで 4 年間延長され、2016 年以降も寄付が追加されている模様。
- 2013 年以降、Volleyball Australia の後援者 (HPPL & Georgina Hope Foundation)となっており、後援期間は 2020 年東京オリンピックまで延長。
- 2016 年初め、リオ・オリンピックに参加する Rowing Australia (豪ボート協会) の後援者として寄付 (HPPL & Georgina Hope Foundation)。後援期間は 2020 年東京オリンピックまで延長されている。
- 2015 年以降、Synchronised Swimming Australia の後援者として寄付 (HPPL & Georgina Hope Foundation) を行っている。

2012 年以降、Gina が HPPL 等を通して後援した水泳、ボート及びシンクロ水泳の豪オリンピック・チームに対する寄付は合計 3,000 万 A\$以上と見られている。

## 2) 福祉・厚生関連

- 1993 年に Gina が設立した Hancock Family Breast Cancer Foundation <sup>23</sup>を通して、継続的に National Breast Cancer Foundation への寄付。
- 1990 年代?より、Parkville Children and Youth Care <sup>24</sup> (WA 州) への寄付及び資金調達を支援 (Georgina Hope Foundation & HPPL)
- 2009 年及び 2010 年、Benda Comprehensive Cancer Center, St John of God Hospital (Perth) へ 200 万 A\$を寄付 (Georgina Hope Foundation & Rinehart Family Medical Foundation?)
- 2015 年、Ronald McDonald House <sup>25</sup> (Perth) の新築を支援 (HPPL)
- 2016 年、Lady Florence Bjelke-Petersen Community Hospital (QLD 州: 旧名 South Burnett Private Hospital) に 3 年間で 60 万 A\$を寄付 (HPPL 他)
- 2016 年、Path of Hope Foundation <sup>26</sup> (WA 州) の後援者になった (HPPL & RHH)。
- 2017 年、St Vincent's Private Hospital (Sydney) に 500 万 A\$を寄付 (HPPL & Rinehart Family Medical Foundation)
- 2017 年、Royal Flying Doctor Service (RFDS <sup>27</sup>) に対し 50 万 A\$を寄付 (S. Kidman 社)

## 3) 教育関連

- 1990 年代から、Gina が通学した St Hilda's Anglican School for Girls (Perth)

---

<sup>23</sup> 1983 年 4 月、Gina の母親 Hope Hancock が乳がんで死去したことから、Gina は乳がん対策支援に注力している。

<sup>24</sup> 1903 年、Perth に設立された児童養護施設 Waif's Home (~1909) が始まりで、Parkville Children's Home (1909~2005)、Parkville Children and Youth Care (2005~) と名称変更した。非営利団体として、これまで約 15,700 名の児童、若者とその家族を支援してきた。

<sup>25</sup> 1974 年、米国ペンシルベニア州 Philadelphia で設立された難病の子供とその家族を支援するための宿泊施設。2015 年時点で、日本を含め世界 38 カ国、347 カ所に施設が設置されている。

<sup>26</sup> 2012 年、家庭内暴力の連鎖を断ち切ることを目的として Perth に設立された非営利団体。

<sup>27</sup> RFDS は、豪州国内で小型飛行機を利用して、遠隔地の患者を病院へ移送する事業で、1928 年に John Flynn が始めた。RFDS は寄付金で運営されている。現在、豪州全体で 71 機が稼働中。

の後援者として様々な寄付を実施 (HPPL & Georgina Hope Foundation?)。

- 1996年に設立された Special Air Services Resources Trust (2012年、SAS Resources Fund<sup>28</sup>傘下に組み込まれた)の後援者として、設立時から寄付を継続 (HPPL)。
- 2010年、Cambodian Children's Fundに、大学学士の取得を目指すカンボジア女性を支援する Hope Scholarship Program を設立し後援中 (HPPL)。
- 2012年以降、National Aborigines and Islanders Day Observance Committee (NAIDOC) の後援者として、様々な活動を支援 (HPPL)。
- 2014年、Bond University (Gold Coast, QLD 州) に、Georgina Hope Rinehart Swimming Excellence Scholarship を設立して後援中 (HPPL)。

2019年1月、Ginaによる慈善活動の寄付総額は推定約2億2,250万U\$相当と報じられた<sup>29</sup>。

#### (6) Gina Rinehart が父親 Lang Hancock から相続した資産

Gina Rinehart の所有財産は2006年に10億A\$を超え、2011年以降2018年まで、2016年が第2位であったのを除き、毎年豪州における長者番付リストのトップ<sup>30</sup>を維持している。また、参考までに、鉄鉱石価格が150U\$/t以上に高騰した2011年の資産価値を反映した2012年の長者番付で、Ginaは世界における女性長者番付のトップ<sup>31</sup>にもなった。

HPPLが現在保有する資産は全てLang Hancockから相続した遺産と思われ勝ちであるが、GinaがLangから相続したHPPL資産の主なものは、Rio Tinto Royalty Agreement、Hope Downs 1~6の鉄鉱床権益、Mulga Downs 鉄鉱床権益、Nicholas Downs マンガン鉄床権益、Mulga Downs Station 及びGalilee Basinの石炭プロジェクトKevin's Corner Coal Project (2011年9月、印GVKグループに売却)である。Rio Tinto Royalty Agreement 及びHope Downs等の鉄鉱床権益が、Langからの相続遺産としてGinaの所有財産に占める割合が大きいことは間違いないが、Ginaによれば、相続したのはこれらの資産だけでなく、父親Langが負っていた数々の負債や問題のあるビジネス<sup>32</sup>も相続したとのことである。

HPPLを現在のような資源大手に成長させたのは、Ginaの手腕によるものであることは間違いない。Hope Downs 鉄鉱床については、GinaがHPPL/Rio TintoのJV結成を決意し開発移行することで同鉄鉱床の資産価値を上げた。Roy Hill 鉄鉱床は相続財産ではなく、BHPが保有していた鉱区を同社が放棄後、HPPL幹部の反対

---

<sup>28</sup> 1996年6月、豪空軍特殊空挺部隊の訓練中に18名が死亡する事故が起き、死亡した部隊員家族を支援する目的で設立されたTrust 1、2010年には空挺部隊員であった全家族を経済的に支援するTrust 2、2011年に空挺部隊員と家族の休養・福祉のためのTrust 3が設置された。本Fundは、Trust 1~3のための募金を集める組織である。

<sup>29</sup> 2019年1月4日付Business Leader誌“Who are the world's most philanthropic billionaires?”より。

<sup>30</sup> “Forbes Asia”に基づく長者番付リスト。因みに、2019年1月に発表されたGina Rinehartの所有財産額は148億U\$。

<sup>31</sup> “Business Review Weekly”による長者番付リストで、2012年におけるGinaの所有財産は推定180億U\$であった。

<sup>32</sup> Ginaが相続した負債や問題ビジネスの詳細は不明であるが、Langが開始して中断されていたルーマニアとのバーター取引から手を引くのに、HPPLは4,000万A\$を負担したとされている。



にも関わらず Gina 自身の意思で 1993 年 1 月に取得したもので、探査の結果、Marra Mamba 鉄鉱層の基底部に商業規模の BIF を発見し、Roy Hill 鉱山開発・操業に繋がった。Kevin's Corner Coal Project の南に隣接する Alpha Coal Project 鉱区についても Gina の判断で 1996 年 1 月に取得したものである。その他、本稿で紹介した豪中堅鉄鉱山会社 Atlas 社の買収、英 Sirius 社 Woodsmith ポリハライト鉱山や Four Eagles Gold Project への参入、牧畜・酪農業への新たな事業展開、またカナダ原料炭プロジェクトを有する Riversdale 社買収等については全て最近のことであり、Gina の判断で取得した資産であり、新規に展開している事業である。

#### (7) HPPL 役員 Tad Watroba について

HPPL の意思決定は会長 Gina Rinehart が行っているが、Gina が全幅の信頼を置いていると見られるのが同社役員 Tad Watroba (1947?~) である。Gina が Tad Watroba の献身を称えて、2010 年に Galilee Basin の石炭プロジェクト Alpha Project を Kevin's Corner Project に因んで“Tad's Corner”と名付けたように、Gina が行うスピーチの多くで Tad の貢献に言及し感謝の気持ちを表している。Tad Watroba はポーランドからの移民で、ポーランド時代には坑内掘石炭採鉱技師であったと自身で述べている<sup>33</sup>。Tad は 1991 年に HPPL に入社、HPPL 役員就任時期は不明であるが、2002 年 10 月時点では HPPL 役員に就任しており、Gina の右腕として活躍している同社 No. 2 の実力者で、HPPL による資産取得対象の選定や事業方針を含め、Gina が行う意思決定に大きな影響力を有していると思われる。

#### (8) HPPL と Wright Prospecting Pty Ltd の係争

Lang Hancock の学友であった Peter Wright (1908~1985) は 1956 年 6 月、Lang が設立した HPPL に倣って、州都パースに非上場の家族経営会社 Wright Prospecting Pty Ltd (WPPL) を設立し、Lang と Peter はパートナーシップ“Hanwright”を結成、数 10 年来のビジネスパートナーとして協力関係を維持してきた。

1984 年 2 月、70 代半ばに達した Lang と Peter は、これまで両者で取得した Pilbara region の数々の鉄鉱床鉱区、その他西オーストラリア州のマンガン鉱床やクィーンズランド州石炭鉱区他に関して、Hanwright で保有する鉱区や権益の相続を巡って後に HPPL / Hancock 家と WPPL / Wright 家の間で揉め事が起こることを防ぐことを目的として、Hanwright が有する鉱区/権益リストを作成し、Hanwright 保有権益分に関して HPPL と WPPL がそれぞれ 50% の権利を有すること、また一方のパートナーが資産分割を要求できるオプション権を有することを記した契約 (1984 年契約) を締結した<sup>34</sup>。1984 年契約に基づき、石炭プロジェクト Kevin's Corner Project に関して、1998 年 6 月、WPPL は保有する権益を HPPL に譲渡、HPPL が Kevin's Corner Project の 100% 権益保有者になった。しかし、Pilbara region の未開発鉄鉱床 Rhodes Ridge<sup>35</sup> の所有権に関して、1997 年以降、HPPL と

<sup>33</sup> “Tad Watroba - Speech to the National Party Annual Conference 2012 (15<sup>th</sup> September, 2012)” に基づく。

<sup>34</sup> 2010 年 3 月 9 日付 The Sydney Morning Herald 記事 “The battle of the mining dynasties” より。

<sup>35</sup> Lang と Wright が発見した Rhodes Ridge 鉄鉱床は Hope Downs 1 鉄鉱山と Hope Downs 4 鉄鉱山の間に位置している。1972 年 6 月、WA 州政府との間で Rhodes Ridge State Agreement が締結

WPPL の見解に喰い違いが生じ、WPPL<sup>36</sup>は 2001 年 3 月、西オーストラリア州高等裁判所（WA 州高裁）に HPPL を提訴した。2010 年 3 月、WA 州高裁は HPPL に対し、Rhodes Ridge 25% 権益を WPPL に譲渡するよう命じた。HPPL はこの判決を不服として WA 州高裁控訴審に控訴したが 2012 年 10 月に棄却され、最高裁に上告許可申請したものの、2013 年 9 月、最高裁は上告許可申請を却下、Rhodes Ridge 鉄鉱床の権益保有者として Rio Tinto 50% / WPPL 50% が確定した。

さらに、2012 年 9 月、WPPL は 1984 年契約に基づき、Hope Downs 4、5 及び 6<sup>37</sup> について 25% 権益を有すること、また Hope Downs 1、2 及び 3 で生産・輸出される全鉄鉱石について FOB 価格 1.25% の royalty を受け取る権利があると主張し、WA 州高裁に HPPL を提訴した。WPPL による提訴に対して、HPPL 側は、2005 年 7 月の発表により、HPPL が Rio Tinto と Hope Downs JV を結成することを WPPL は承知していたし、HPPL が Hope Downs 4~6 に係る費用を 20 年以上も単独で負担してきており、WPPL が開発資金を負担していない Hope Downs 4 鉄鉱山の生産開始が近いこの時期になって WPPL が訴訟を起こすのは理解できないとコメントした。WA 州高裁は 2016 年 2 月、WPPL の主張が認められた場合、HPPL だけでなく Rio Tinto も WPPL に対する損害賠償の責任を負う、との判断を示した。本係争は、WA 州高裁で継続中であるが、最高裁による判断がなされるまで決着しないと考えられ、最終決着するまで、今後、少なくとも 5 年~10 年はかかるものと見られる。

Lang と Peter が 1984 年契約を締結した趣旨に反して、両者の没後、HPPL と WPPL が 20 年近く係争を続けている状況を、Lang と Peter は墓の下でどう見ているのであろうか。

#### （9）Gina Rinehart と長女・長男との係争

Gina 及び HPPL は、上記の WPPL との係争に加え、長男 John Hancock（1976~）及び長女 Bianca Rinehart<sup>38</sup>（1977~）とも係争になっている。Gina Rinehart 家族の係争は、NSW 州高裁と豪連邦裁判所<sup>39</sup>で続いていたが、豪連邦裁判所での係争については 2019 年 5 月に最終判決が下された。なお、三女 Ginia Rinehart（1987~）は係争が開始された当初から、母親 Gina の支持に回っている。

##### 1）NSW 州高裁における訴訟

2011 年 9 月、Gina の次女 Hope Welker（1986~）は、HPPL 23.45% 株主である Hope Margaret Hancock Trust（HMHT）唯一の受託者になっている Gina が

---

された。CRA（後の Rio Tinto）は 1995 年 11 月時点で、Rhodes Ridge Project（面積 1,142km<sup>2</sup>）50% 権益を保有していた。2018 年 Rio Tinto Annual Report によれば、Rhodes Ridge 鉄鉱床の総資源量は 56 億 2,900 万 t（Brockman 鉄鉱石 26 億 8,700 万 t、Marra Mamba 鉄鉱石 29 億 4,200 万 t）。

<sup>36</sup> この当時、WPPL 株主は、Peter Wright の長男 Michael Wright（1937~2012）50% と長女 Angela Bennett（1945~）50% であった。WPPL も Rio Tinto から、HPPL と同様、推定約 3 億 A\$/年を超える royalty を受け取っている。Forbes によれば、2019 年における Angela Bennett の所有財産は 16 億 US\$。

<sup>37</sup> 1989 年、Hope Downs 4~6（旧名：East Angelas）について ML が HPPL / WPPL に付与された。HPPL 側は、WPPL とは 1990 年前後に、HPPL が Hope Downs 4~6 の 100% 鉱区権者になることを合意した旨を主張していると思われる。

<sup>38</sup> 長男 John と長女 Bianca は Gina の初婚相手（当時、HPPL 社員）との間の子供、次女 Hope と三女 Ginia は再婚相手 Frank Rinehart との間の子供である。

<sup>39</sup> 豪連邦裁判所（Federal Court of Australia）は、主に、企業、貿易、労働問題、関税、移民等の連邦法に関する訴訟を扱う。

HMHT に関して違法行為<sup>40</sup>を行ったとして NSW 州高裁に提訴、その数日内に、長男 John と長女 Bianca が原告に加わった。2013 年 1 月、資金難の状況にあった次女 Hope は 4,500 万 A\$ で母親 Gina と和解<sup>41</sup>、原告から退いた。2013 年 10 月、Gina は HMHT 受託者を辞任することを表明し独立した受託者の任命を求めたが、2015 年 5 月、NSW 州高裁は長女 Bianca を HMHT 受託者に指名した。Bianca はまた、Gina が受託者として HMHT を管理する立場にあった間、HMHT に対して約 5 億 A\$ 相当の配当金を支払わず信託義務違反を犯したこと、Gina が HPPL 資金を個人的支出のために使用しているとの申立てを行い、Gina に対する提訴が可能か同高裁に判断を求めたのに対し、NSW 州高裁は 2017 年 3 月、原告は Gina に対して提訴可能との判断を示した。原告側は Gina に HMHT 文書の譲渡を求めるなどして、本係争は現在も継続中である。

## 2) 豪連邦裁判所における訴訟

1988 年、Gina の要望に応じて Lang Hancock が 4 人の孫たちのために設立した Hancock Family Memorial Foundation (HFMF) は Hancock Resources Ltd (HRL) の 100% 株主で、HRL が元々 Hope Downs、Nicholas Downs、Mulga Downs 及び Roy Hill 鉱床の鉱区権者であった。その後、1992 年から 1995 年にかけて上記鉱床の鉱区権者が HRL から HPPL に移転され HPPL 債務再編が行われた結果、1995 年に Gina の HPPL 株式保有比率が当初の 51% から 76.55%、HMHT は当初の 49% から 23.45% の株式保有となった。2014 年 10 月、長女 Bianca と長男 John は、Gina が行った HPPL 債務再編を詐欺的行為として、HPPL が得た利益に対して HMHT は応分の権利があること、HPPL が保有する上記鉱床に関する資産は HFMF の法定信託として HPPL が保有するものであることを主張、また Gina は HPPL 債務再編を利用して HPPL 株式保有比率を 76.55% に増加させたとして、豪連邦裁判所に Gina 及び HPPL 等を提訴した。

Gina 側は、自身の子供たちを含む当事者間の合意事項を記した数々の証書 (Deed) にて、紛争は内密の調停で解決することが合意されているとして、これに基づき本件を内密の調停で扱うことを求めたが、2016 年 5 月、豪連邦裁判所は Deed で合意した調停の一部は無効であるとの判断を示した。Gina 側は同裁判所控訴裁判所に控訴し、2017 年 12 月、控訴審は調停の結果が出るまで本訴訟の凍結を言い渡した。原告 Bianca と John は控訴審判決を不服として、最高裁に上告許可申請を行い、2018 年 5 月、最高裁は上告を認めたが、2019 年 5 月、最高裁は原告側の上告内容を棄却した。本件は今後、被告の Gina 及び HPPL 側の主張する内密の調停で解決が図られることとなった。

NSW 州高裁に提訴されている係争は最終決着までには相当の時間を要するものと推測されるし、豪連邦裁判所に提訴された件は裁判所管轄から離れたものの、争い自体は未解決のままであり、今後、内密の調停の場で論争が続くものと考えら

<sup>40</sup> HPPL の 23.45% 株主 HMHT に関して、三女 Ginia Rinehart が 25 才に達する 2011 年 9 月の誕生日に、Gina は受託者を外れ、自動的に Gina の 4 人の子供が直接の受益者になることになっていた。本訴訟は、Ginia の 25 才誕生日の数日前に、Gina は 4 人を欺いて受益権の発生日を 2068 年まで延期することに同意させたとして、提訴されたもの。

<sup>41</sup> 2017 年 3 月 22 日付 The Sydney Morning Herald 記事 “Bianca Rinehart given go-ahead to sue her mother Gina over family trust, by Louise Hall” より。

れる。

財産を巡る家族内の争いは特段珍しいことではないが、財産規模が桁違いに大きい Gina Rinehart 家族の係争は豪州ではメディアの注目を浴びており、今後も何らかの動きがある度に報道がなされることは間違いない。

#### (10) 後継問題

HPPL は、今後も会長 Gina Rinehart のリーダーシップの下で事業の継続・発展が図られていくものと考えられるが、Gina の年齢からすれば、何れ後継問題が持ち上がる。

Gina は 10 才前後の頃から、父親 Lang の意向により、Lang のビジネス・ミーティングや海外出張に同行していたとのことで、Lang は早い時期から一人娘の Gina を自身の後継者にするつもりであり、Gina も若い頃から Lang と一緒に仕事を行うことで Lang 流の仕事のやり方を身に付けてきたと思われる。Gina が HPPL 会長に就任したのは 38 才の時で、現在まで 27 年間 HPPL を率いてきており、HPPL 及びグループ会社に関して絶対的権限を有する Gina が健康を損なわない限り、少なくとも今後 10～15 年は、Gina が会長として HPPL グループを率いていくことであろう。

後継者問題を取り上げるのは時期尚早ではあるが、現時点で、次期 HPPL 会長候補と考えられるのは、Gina の 4 人の子供のうち、次女 Hope を除く、長男 John、長女 Bianca 及び三女 Ginia の 3 人である。HPPL 設立者の Lang から Gina の後継者と見做されていた長男 John は 1997 年に HPPL 役員に就任し、HPPL を代表してアジアや欧州での鉱業関連会議に出席、また南アフリカの鉄鉱山や製鉄所での勤務を通して鉄鉱石ビジネスに関する実務経験を積んでいたが、次第に Gina と意見対立するようになり 2003 年に HPPL を去った<sup>42</sup>。また、1998 年に HPPL 代理役員<sup>43</sup>に就任したされる長女 Bianca は、2004 年に HPPL で常勤の秘書役兼対政府関係顧問及び HPPL 子会社役員に就任したが、責任ある仕事を任されず仕事量も十分ではないとして 2008 年 6 月までに自身から HPPL 子会社役員を辞任かつ常勤職を外れ<sup>44</sup>、2011 年 9 月に NSW 州高裁に Gina を提訴する原告に加わった直後の同年 10 月末に HPPL 代理役員を解任された<sup>45</sup>。その後、三女 Ginia が 2011 年 12 月に HPPL 代理役員<sup>46</sup>に就任し、鉄鉱山での勤務等を通して HPPL で実務経験を積んでいる。Ginia は自己流で物事を進めるタイプで母親 Gina に最も似ている<sup>47</sup>と言われており、現状、Ginia が Gina の最有力後継候補と見られている。Bianca は HPPL23.45% 株主である HMHT を管理する受託者としての役割に専念することも考えられるが、Gina と長男 John・長女 Bianca との間で争われている訴訟及び内密の調停の行方は、後継問題に何らかの影響を及ぼすことも考えられる。

<sup>42</sup> "The Miner's Daughter-Gina Rinehart is Australia's richest-and most controversial-billionaire, by William Finnegan, March 18, 2013" に基づく

<sup>43</sup> Bianca が HPPL 役員のうち誰の代理役員 (alternative director) になっていたのか定かではないが、恐らく、長男 John の代理役員、John が役員辞任後は Tad Watroba の代理役員になっていたものと思われる。

<sup>44</sup> 2013 年 9 月 14 日付 The Sydney Morning Herald 記事 "The mother of all feuds" より。

<sup>45</sup> 2012 年 1 月 30 日付 The Sydney Morning Herald 記事 "Another Rinehart daughter exits Hancock board" より。

<sup>46</sup> Ginia は HPPL 役員 Tad Watroba の代理役員になっている。

<sup>47</sup> 脚注 44 に同じ。

HPPLは、豪州に強い愛着を持つオーナー兼会長 **Gina Rinehart** の強力なリーダーシップの下で、鉄鉱石、石炭等を対象とする上流分野で探査・開発・操業を行っている豪州大手の非上場家族経営会社で、鉱物資源分野だけでなく近年には牧畜業にも参入し、豪州では最大の民間土地所有者として大規模な事業展開を始めている。このように、HPPLは資源会社としてはやや異質な存在ではあるが、潤沢な手元資金を有しており、同社が次にどのような手を打つのか、大変興味を抱かせられる会社である。HPPLは、日本では報道されることが稀な資源企業であるが、豪州では誰もが知る資源大手で、その存在は年々大きくなっており、今後、HPPLの動向は日本を含めた海外でも注目を浴びるようになると思われる。

以上

おことわり：本レポートの内容は、必ずしも独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構としての見解を示すものではありません。正確な情報をお届けするよう最大限の努力を行ってはおりますが、本レポートの内容に誤りのある可能性もあります。本レポートに基づきとられた行動の帰結につき、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構及びレポート執筆者は何らの責めを負いかねます。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構資料からの引用である旨を明示してくださいようお願い申し上げます。